

2005年08月22日 【日本経済新聞】掲載

森で移動できる製材機 益製作所が発売 間伐材を現場加工

変速機メーカーの益製作所(高知県南国市、長山勝治社長)は間伐などで伐採した木材を現地で製材できる**移動式製材機「MIS-8000」**を開発、販売を始めた。大規模林道が整備されていない森林内にも設置が可能で、これまで現地に捨てていた間伐材をその場で加工して、搬出・販売できるようになる。高知県工業会も新製品の販売を支援する。

開発した新製材機は丸ノコギリの直径が96.5センチあり、長さ6メートル、直径40センチ、重量350キロまでの木材が切削可能だ。各 부품の重量を50キロ、長さ3メートル以下に抑えたので、分解して軽四輪トラックで運べる。組み立てはドライバーなど簡単な工具で半日から1日でできる。

スギやヒノキの人工林の荒廃を防ぐには、間伐が欠かせない。ただ林道などが整っていないと、伐採した木材の搬出ができず、売れない。高知県内の間伐も、材をそのまま放置する切り捨て間伐の方が圧倒的に多い。新製材機を使うと、捨てていた材を販売できるようになり、中山間地域の活性化につなげられる。

2005年07月23日 【高知新聞】掲載

県工業会が推奨商品制度 移動式製材機が第1号

南国市の益製作所

県工業会(鈴木康夫会長)はこのほど、同会独自の「推奨製品・商品」制度を開始。第1号に益製作所(南国市宍崎、長山勝治社長)の**移動式製材機**を選んだ。

制度は同会推奨という“お墨付き”で製品の信用力を高め、会員企業の営業を支援することが狙い。同会ホームページへの掲載や、会員企業の人脈を生かしたPRなどでも後押しする。

移動式製材機は同社が昨年開発。安全性確認の手続きをクリアし、22日には本格販売に向けて、関係者ら約20人を集めて同社近くで実演を行った。

長さ3メートル、重さ50キロで、軽トラックで運搬できる。価格は135万円からで、「伐採現場で1次加工することで輸送コストを抑えられ、間伐の促進に役立つ。製材法の指導も行うので、森林組合や林業者らに向けて販売したい」と長山社長。

工業会側は「中山間地のなりわい創出にもつながる製品。小規模な企業は販売面の苦勞が多いので、推奨制度で良い製品を作る企業を積極的にバックアップしていきたい」と話している。

【写真説明】 県工業会の推奨製品第1号の移動式製材機(南国市宍崎)



メールアドレス info@masuseisakusyo.com

ホームページ <http://masuseisakusyo.com>